

# 葬送と終活を考えるシンポジウム 基調講演

---

## 「みんなの終活」～Z世代に残す社会

「家族」と「情報」 2050年を念頭に

- (1) 現状～終活から「お終活」へ
- (2) 葬送～お葬式、お墓の多様化
- (3) 終活の功罪～「安心」と情報過多
- (4) 課題・展望～身寄りなき老後

講師 元北海道新聞編集委員 福田 淳一

7月6日（土曜）アスティホール

# 終活が「お終活」になるまで

---

- 「週刊朝日」の連載「現代終活事情」（2009年）が始まりと言われるマスコミの造語。2012年に「ユーキャン新語・流行語大賞」トップ10入り
- お葬式、お墓の準備など、終末に向かったの活動（就活のもじり）
- その後、分野が広がる一方
- 学問体系ではなく、人によってさまざまな解釈
- 息の長いブーム、社会現象
- 情報は週刊誌など出版物、映画、テレビ、ネット
- 終活が映画「お終活」に

# 終活の関心の広まり

---

- 中心は高齢者層 少子高齢化で、自分自身の活動
- 例えば団塊世代（1947～49年生まれ、2025年に全員75歳以上）
- さらに高齢の親を持つ年齢層、老後不安、人生設計、親の終活に備える、今では10代～20代も
- 行政、公的機関、葬儀社の関与～死後事務、エンディングノート、おくやみ窓口
- ビジネスとしての終活 出版物、映画、ネット情報提供。郵便局、信託銀行、保険会社など金融機関～終活相談サービス、終活保険、死後事務のサポート

# 終活の分野の拡大、性質の変化

---

- お葬式、お墓の多様化、直葬、墓じまい、墓友
  - 仏壇の小型化・多様化、手元供養品の人気
  - エンディングノート→多様化
  - 生前整理（断捨離、遺品整理、デジタル遺品）
  - 遺産相続（公正証書や自筆の遺言、遺贈、家族信託）
  - 住み替え（老人ホーム、サ高住、シニア向け住宅）
  - 介護、終末期医療、成年後見制度、死後事務委任、  
死後離婚、グリーフケア
- 
- 性質の変化～「終活」「生活」の境界があいまいに
  - 例～エンディングノートと備忘録、生前整理と整理収納

# 背景に何があったのか

---

- 「少子高齢化」「家族」の変化
- 高齢者がお葬式、お墓の準備をするようになった
- 長寿化 人生100年時代 認知症、介護、住居
- 世界最速とも言われる人口の高齢化
  
- 死をタブー視する意識の薄れ
- 中高年の心理 「子どもに迷惑をかけたくない」
- バブル崩壊（1990年代～）、失われた10年、20年。  
リーマンショック
- 東日本大震災（突然の大量死）、コロナ禍

# 終活の効用

---

- 年を取る、ということか？
- 「思い出と心配ごとは…」
- 高齢期の不安解消・軽減に役立つ終活の知識
- 「安心した」「安心して死ねる」が大事
- 終活は心配ごとの処方箋
  
- 死に支度と同時に「心の健康寿命」を伸ばす手段としても
- 生前整理 今の生活を合理的に、安全に過ごす知識
- エンディングノート 人生を振り返り、やり残したことを再発見

## 終活の弊害 情報が人を振り回す

---

- 情報過多、「終活」をしなければならないと思い込む  
→義務感がストレスに（必修科目ではなく、

「選択科目」と考える)

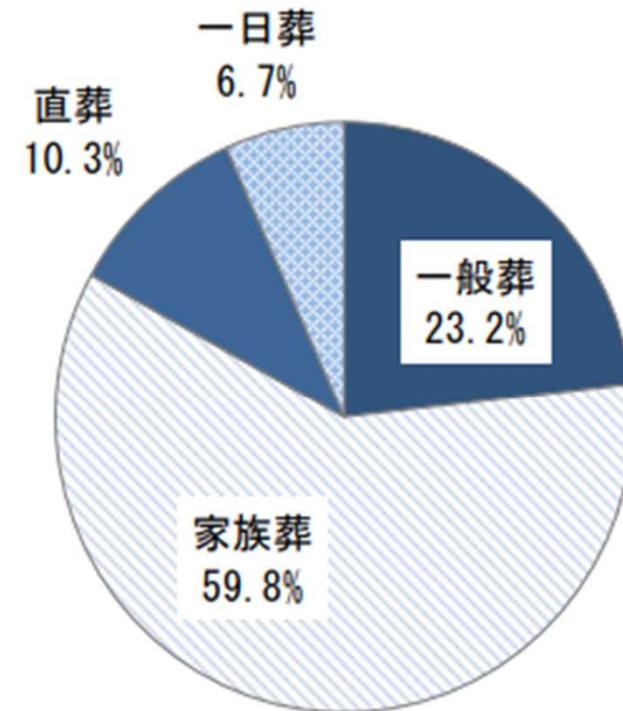
- 「生前整理」「断捨離」物は何でも、捨てればよいと思い込む→人生の記録、貴重なものまで捨ててしまう  
捨てられない→そんな自分に罪悪感
- 「家族葬」住んでいる家族だけでいいと思い込む
- 「墓じまい」周りに相談しない→家族、親族がショックを受ける

# コロナ禍、お葬式の小規模化

- グラフは札幌市アンケート資料より  
(2023年12月、22年度火葬場の利用  
500人対象、直近で火葬場を利用した  
際のお葬式)

- 家族葬が主流。一般葬は  
一般と言えるか。公開葬、  
社会葬、地域葬？

- 参考 お葬式に関する全国調査  
2024年3月 鎌倉新書  
家族葬50.0%(22年比5.7ポイント減)  
一般葬30.1%(22年比4.2ポイント増)



(1つだけ選択、回答者数=224、無回答除く)

# お葬式 コロナの影響

---

- 新聞のおくやみ欄にみる傾向
- 札幌市 そもそも載せない傾向、目立つ「葬儀終了」
- 「葬儀終了」で掲載しても、喪主を掲載しない例も
- →「**村八分**」という言い方は成り立つか？
  
- 札幌市以外の市町村
- コロナで広まった 通夜、葬儀・告別式(○時～○時)随時
- →今でも目立つ
- お葬式の「二重構造」、地域社会の仕組みの温存の傾向

# 変わるお墓

---

- 和型から洋型へ
- ○○家の墓、一族の墓、先祖代々の墓→  
多様な選択肢
- 個人の墓、夫婦の墓、両家の墓、合葬墓、樹木葬、納骨堂、散骨
- 人気が出てきたペットのお墓、ペットと眠るお墓
- 期限付きの墓、レンタル墓も出現

# 墓じまい、改葬、合葬墓の動向

---

- 北海道の改葬数（厚生労働省調べ）
- 2012年度 4383件（都道府県別 4位）
- 2022年度 1万2243件（都道府県別 1位）
  
- 北海道の市町村の合葬墓
- 1988年札幌市、2012年小樽市、2013年北見、網走市  
...
- 2021年4月 49カ所、2023年10月 72カ所
- 2年半で23カ所増(北海道新聞調べ)

- 「知識は、毒にも薬にもなる」
- あふれる多様な情報（多様な医薬品）をどう選ぶか
- ネット情報、マスメディアの情報を吟味・判断する「情報リテラシー」をどう普及するか
- 正しい情報をどう発信するか
  
- あふれる情報の一方で、終活を嫌う人も
- →個人の価値観、選択は自由。しかし、役立つ情報（医薬品）をシャットアウトする懸念、終活を嫌う人にどうアプローチするか

# 報道の焦点はどこに

---

- 最近の報道で目立つのは
- 少子化、出生率の低下、人口減少社会、地方消滅
- 身寄りのない老後、高齢独居（資料参照）
- **人生の最初と最後に焦点**
- 特に最後の課題、問題
- 身元保証のトラブル 悪質業者 8年前には資金流用で破綻した公益法人も
- 住まいの確保、孤立死
- 無縁の遺体、無縁遺骨、無縁墓の増加
- 亡くなった後の葬送、をどうするか
- **「人生の最初と最後は、人の手がかかる」**

# 2050年はどういう社会か

---

- Z世代（1990年代後半～2010年ごろまでに誕生）が40代、50代に
- 高齢化、多死社会は続き、人口減少社会へ
  - 北海道 522.5万人→382万人
  - 札幌市 197.3万人→174.6万人
- 地方消滅 2020年～2050年 20歳～39歳女性半減（消滅可能市町村）道内は117市町村（人口戦略会議）
- 一人暮らし高齢者 全国1083.9万人（2010年の2倍強）
- 近親者がまったくいない一人暮らし高齢者急増か
- 予想される孤立と貧困→無縁の遺体、遺骨、お墓が増加か
- 墓じまいの増加、葬儀の小規模化はさらに続く？

# 身寄りなき老後～家族に代わるものを

---

- 横須賀市のエンディングプラン・サポート事業～1人26万円で葬儀社と生前契約、火葬、納骨、供養を市が見届ける
- 社会福祉協議会の取り組み～死後事務委任
- 国が新しい支援制度を検討～日常生活から死後対応まで（5月7日 朝日新聞朝刊）
- 終活・葬送を社会で支える仕組み、家族に代わる人間関係が必要
- 「ある社会は、老人をどう扱うかによって、（中略）  
真実の姿を赤裸々に露呈するのだ」

（フランスの哲学者 シモーヌ・ド・ボーヴォワール「老い」）

ご清聴、ありがとうございました

# 資料編 終活の用語解説（1）

参照 福田淳一「私の暮らし人生帳」北海道新聞社

---

- **デジタル遺品**～パソコン、スマホなどの内部に保存されているデータのこと。ネット銀行の預金などは「デジタル遺産」と呼ばれることもある  
こうした情報を整理し、家族に分かりやすくしておくことを「デジタル終活」と呼ぶ
- **グリーフケア**～グリーフとは英語で悲嘆の意味。親しい人との死別などで悲嘆にくれている人をサポートすること
- **死後離婚**～造語の一種。配偶者の死後、市町村に届け出て、配偶者の父母、兄弟姉妹など3親等以内の姻族との縁を絶つこと。配偶者の墓に入らないことを意味する場合もある
- **遺贈（いぞう）**～遺言などで特定の個人、団体に財産を残すこと。お世話になった団体や、途上国支援・災害支援の団体に遺産を残すなど「人生最後の社会貢献」として注目されている

## 資料編 終活関連の用語解説（2）

---

- **直葬**～「ちよくそう」または「じきそう」と読む場合もある。火葬式とも呼ばれ、通夜、告別式を省略し火葬だけで見送る形式
- **一日葬**～通夜を省略し、葬儀・告別式だけで見送る形式。函館・道南では「通夜・告別式」と称し、午後の時間帯に一括して行う例も多い
- **墓じまい**～維持・管理が難しくなったお墓を撤去し、遺骨を移転すること。市町村の「改葬」許可が必要
- **樹木葬（じゅもくそう）**～国内では、墓標の代わりに樹木を植える埋葬方法として始まった。現在ではお墓の周りを樹木や花壇で飾る「ガーデン型」が主流。シンボルツリーを植えて周りに遺骨を葬る方法もある

## 資料編 終活関連年表

---

- 1990年代～がんの告知
- 1994年（平成6年） 高齢化率14%超え（高齢社会）  
永六輔「大往生」ベストセラーに
- 1995年（平成7年） 阪神・淡路大震災
- 2007年（平成19年） 高齢化率21%超（超高齢社会）  
「千の風になって」のヒット
- 2008年（平成20年） 映画「おくりびと」
- 2009年（平成21年） 週刊朝日「現代終活事情」
- 2011年（平成23年） 東日本大震災
- 2020年（令和2年） 新型コロナ感染拡大
- 2023年（令和5年） 死者157万6千人で過去最多

## 資料編 「身寄りなき老後」 関連 最近の報道

---

- 4月6日 朝日新聞 「身寄りなき老後 71歳で脳梗塞 親族頼れず 高齢独居は20年で倍」
- 4月13日 毎日新聞 「高齢単身世帯2割超 2050年 国推計」
- 4月21日 NHK 日曜討論「増える単身世帯 どうする？ 高齢期の住まい」
- 5月14日 朝日新聞 65歳以上「孤立死」年6.8万人
- 5月20日 朝日新聞 身寄りない遺体 実態調査
- 6月3日 読売新聞 「無縁遺体」3割増
- 6月10日 NHK クローズアップ現代「知らない間に火葬された あふれる遺体 相次ぐトラブルの実態」